

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2006.12) 7巻1号:90.

第33回日本脳科学会を開催して

橋詰清隆

学界の動向

第33回日本脳科学会を開催して

橋 詰 清 隆*

6月という、北海道では最高といえる季節に、前日の夜の理事会と評議員会の行なわれた翌日から1日半の会期で第33回日本脳科学会が開催された。

プログラムでは、特別講演には、Claude G. Wasterlain 先生 (Department of Neurology, UCLA) をお招きし、「Status Epilepticus: a Window on the Adaptive Mechanisms of Neuronal Networks」というタイトルでてんかん発作重積状態における神経ネットワークの変化について講演していただいた。また、ランチョンセミナーの講師もお願いし、神経細胞のネクローシスとアポトーシスにおける細胞内ミトコンドリアの機能について「Role of Mitochondria in Neuronal Necrosis and Apoptosis」という講演をいただいた。一般演題では19題の発表があり、1日目の最後には、ワークショップ「神経疾患の新たな展望」が、本学解剖学教授の吉田成孝先生の座長の下で開催され、以下の4題が発表された。

1. Reg/PAP ファミリーによるマクロファージ遊走と神経再生促進作用
濤川一彦 (旭川医科大学解剖学講座機能形態学分野)
2. 高グリシン血症から脳科学へ
佐藤康二 (浜松医科大学解剖学講座)
3. 孤発性筋萎縮性側索硬化症の病態
相澤仁志 (旭川医科大学神経内科 (循環・呼吸・神経病態内科学分野))
4. 精神疾患に対する機能的脳外科療法
— 深部脳刺激を用いた新たな展開 —
森 則夫 (浜松医科大学精神神経科)

1日目終了後は会員懇親会を開き、基礎から臨床だけでなく非医学系にもおよぶ本学会会員が交流、親睦を深めることができた。また、本学会では発表者の中

で若手研究者を対象にした奨励賞を設けており、毎回1名が受賞するが、今回は、東京女子医科大学脳神経外科の落合卓先生が受賞した。受賞した演題名は「上側頭溝の形態学的研究」である。懇親会の席で受賞が発表され、副賞の贈呈式が行なわれた。

2日目は午前のみであり、シンポジウム「21世紀の脳科学」が開催された。

座長は、遠山育夫先生 (滋賀医科大学・分子神経科学研究センター) と佐藤康二 (浜松医科大学・解剖学) 先生で、以下の4題が発表された。

1. 家族性パーキンソン病研究の最近の進歩
高橋良輔 (京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座臨床神経学)
2. 脳ニューロン死の制御と脳変性疾患の予防・治療
野村靖幸 (横浜薬科大学薬物治療学、北海道大学大学院医学研究科)
3. Activation of the higher brain function during food intake
Yutaka Oomura (Dept. Integrative Physiology, Faculty of Medicine, Kyushu University)
4. 統合失調症の分子機序
遠山正彌 (大阪大学大学院医学系研究科神経機能形態学)

本学会の発表要旨は、Journal of Brain Science に掲載されており、発表者は全員、比較的短い期間の間で英文要旨を作成し、本学会の活動は国際的にも知られるようになっている。本学会では脳科学の分野での幅広い研究結果が発表されるため、同じ分野での研究者には研究のヒントも得られるし、たくさんの刺激を受ける学会であった。

*旭川医科大学 脳神経外科学講座